

# 滋賀ブロック協議会 2020年度

## 広報委員会 基本方針

委員長 酒井 洋輔

多様化する情報化社会において、様々な情報を発信してきた広報委員会において重要なことは、委員会メンバーが強い絆で結びつくことである。2020年の滋賀ブロック協議会では、委員会メンバーが一丸となり、一人ひとりが信頼できる関係を構築することで、更なる次代へ向けた広報活動ができます。多くの情報が交錯する今こそ、青年会議所運動の楽しさや責務を、委員会メンバーの一人ひとりが主役となって伝えていく事が必要です。

まず、県内11LOMの日常の活動や運動をはじめとした事業などを取材します。委員会で連携を図ることで普段とは違う目線での取材が可能になり、新しい魅力や楽しさの発見など新たな視点からの情報を伝えていきます。そして、長い歴史と伝統ある滋賀ブロック協議会としての熱き思いを継続的、または効果的に伝えるために、今日までの滋賀ブロック協議会の歩みを基礎とし、これからの新しい時代へ向けて誰もが興味を持てる広報活動を行い、滋賀ブロック協議会の熱意を伝播します。また、滋賀ブロック協議会としての日々の取組み、県内11LOMの活動・運動の成果と多岐にわたる情報や各種事業の記録を受信・集約し、保管を行いホームページとSNSを連動させ、その効果を最大限に利用し、迅速に発信していきます。さらに、滋賀の素晴らしさを多くの人々に知ってもらうために、近畿地区大会において滋賀の良さを伝えられる魅力あるブース出展を行うことで、湖国滋賀を五感で感じていただけるようにします。そして、地域社会でのSDGsに関する運動の取組みを共有するために、委員会を通じて情報収集を行い、取りまとめてホームページやSNSを活用し、情報の発信をしていきます。

強い絆で結ばれたメンバーの発信する情報は情熱や熱意にあふれ、滋賀ブロック協議会や県内11LOMの運動の情報共有と共感者の増加につながります。その結果、新たな課題の発見や提案への導きが生まれます。一人ひとりが主役になり、活動や運動をしていくことにより「全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる滋賀」を実現します。

### <事業計画>

1. 各種媒体を活用したJC運動の情報の受発信
2. 各種事業の記録及び保管
3. 近畿地区大会和歌山大会へのブース出展の実施
4. 地域社会でSDGsを推進する事業の実施